

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 11月10日(水)

会場： よっしゃ吉舎

1. 地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
災害・復旧について	<ul style="list-style-type: none"> ・河川災害の復旧については、流木の伐採はされても、土砂の浚渫は要望しているがかなわない。支流についてはまだ着手してないところもある。護岸整備も進めてほしい。 ・小さな支流では、少しの雨でも土砂がたまり、川が溢れる。そのため、災害の危険性があり、地域を出ていく若者もいる。住みやすい環境にするためにも土砂をとってもらいたい。 ・想定外の豪雨が頻発している。市民の安全・安心につながる取組をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川・農地の災害復旧については、平成30年度災害は概ね完了する。令和2年度の災害復旧にも着手している。農地災害の復旧には時間がかかる場合があるが、復旧に向け努力している。 ・浚渫については、県において計画的に実施していただいているが、箇所数が多いため目に見えて進まない部分もある。引き続き県に要望する。 ・県が推進している「マイ・タイムライン」は、平時から自宅等の災害の危険性を把握し、避難所への経路や避難にかかる時間を自らシミュレーションして可視化する取組であり、参考になると考えられる。
要支援者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 避難所運営では、要支援者への対応が課題である。ガイドラインを作ってもらいたい。支援にあたる自主防災の役員がどのようにかかわっていくのか。要支援者と各関連機関との連携・連絡について市の意向を聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者への対応については、国でも県でも大きな課題である。 ・補助避難所での受入については、昨年からの関係で資機材を整備し、高齢者などはなるべく入口に近い場所とするなど基本的なゾーニング(空間を用途に応じて分ける)の考え方を示している。 ・要支援者の避難支援として、要支援者一人ひとりの避難方法等を平時から決めておく「個別避難計画」の取組を準備している。地域の実情を聞きながら進めていきたい。
ボランティア活動について	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織はボランティアで活動しているが、活動されている方への補助はないのか。補助金や交付金の中から人件費に充てることはできないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の開設については地域の皆さんの協力を得ているところだが、令和3年8月の大雨は長期にわたったため市の職員だけでは指定避難所を開設することが難しく、依然としてマンパワーの確保が課題である。今後、課題への対応を精査していきたい。
土砂災害警戒区域での制限について	<ul style="list-style-type: none"> ・桧地区では、太陽光発電所が建設されている。土砂災害警戒区域に指定されていた区域の山を削って建設されており、その下に住家もある。これには問題が3つあり、①水が濁る。②8月の大雨で谷間から大量の山水が発生した。これに関しては、業者が水路を造ることになっているが未完成。③井戸水が枯れる。土砂災害警戒区域では工事をさせないなど、市からの制限はできないのか。 ・地域の関係者と業者の間で誓約書も作成している。財産、生命が損なわれることがあれば、補償するように取り決めをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒区域への建設については、現行法上は抵触しないように手順を踏んでされている。しかし、現状は民家も近いため不安はぬぐえない。現行法以上に市として制限できるかは検討が必要である。 ・開発を進めている業者とは話し合いの中で、解決をしている状況であるということ。今後、同様な案件があった場合、市の規制の中で開発を慎重にするようにということで受けとめる。地元のことと、日常生活の心配事があつたら、支所をはじめ対応する。
ため池について	<ul style="list-style-type: none"> ため池について、130件以上のため池の廃止を進めていると聞く。使っていないため池を廃止するように工事等を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 県では、防災・減災のため、危険ため池のランクづけをして、危険度が高いところから、対策を講じている。市としても、登記のついていない、日常生活に影響が出るようなため池については、県とも連携しながら進めていきたい。
避難所について	<ul style="list-style-type: none"> ・危ない箇所は消防団等が経験則で見廻っている。自治振興連合会からしっかり情報提供があつたので助かった。インターネットがある避難所は県の防災情報を見れば河川の水位などが随時わかる。インターネットのない場所では、経験則となる。 ・令和3年8月の大雨では、安田地区は、補助避難所を開設し、4世帯10人以上が避難された。コミュニティセンターの他に安田小学校を使用した。冷房があつたので快適に過ごすことができ、廃校を臨機応変に活用できた。一家族に一教室を割り当てることができ、体育館より校舎の方が適していた。 ・避難所での、書類や手続きをできるだけ簡素化してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供がスムーズに行われたことなど、他の避難所運営の参考にさせていただきたい。

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 11月10日(水)

会 場： よっしゃ吉舎

2. 持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
まちづくりビジョン	<ul style="list-style-type: none">・まちづくりビジョンの改定を進めている。ワークショップを開催し、人口ビジョンを共有していき、重点課題についてはアクションプランの作成にも取り組むことが大事だと考える。人口減少が吉舎町の一番の課題である。・定住に関しては、移住者の方に選んでもらえる地域になっている。移住者の方たちが就農や起業など精力的に活動され、自立されている。そういう力をまちづくりビジョンにしっかり生かしていきたい。・交流拠点のよっしゃ吉舎ロビーを活用し、朝のコーヒータイト「よっしゃきんさい」という情報交流会を今年から始めた。各機関・団体・住民の20~30人で交流し、旬な取組を情報交換している。	他の地域でも「カフェ」は人がつながるキーワードになっている。地域や人がつながっている。地域でしかできない取組については、今後情報提供をしていきたい。
オンライン研修	コロナ禍で、吉舎町においてもオンラインで研修や理事会を開催している。緊急時や災害時にも活用できる。	コロナ禍で、市役所もデジタル化が進み、会議もWebで開催するようになった。移動時間を効率化することで、その時間を市民の皆さんとの交流に使うことができる。デジタルによって便利になるものは積極的に活用する。普段活用することが重要である。今後においては、対面式での対話も重要なこともあり、Webでの対応と状況に応じて使い分けていく。
奥田元宋記念館	奥田元宋先生の生家を記念館として活用してほしい。	-